

# 食品工場殺菌に使う「微酸性電解水」

微酸性電解水を霧状に噴き出す試作機ができ、早速、トマトに噴霧する森田英治さん（左）＝鈴鹿市安塚町

# トマト病気予防に利用

殺菌作用があるとされる「微酸性電解水」をトマトの病害防除に試そうと、鈴鹿市安塚町で野菜を無農薬栽培している森田英治さん(54)が、近く自分の畑で試験散布を始める。森田さんは、その有効性を自ら実証し、「他の農家の参考になれば」と意気込んでいる。

微酸性電解水は薄い塩酸を電気分解した、pH5〜6.5の水。宮崎大学農学部津野和宣准教授（植物病理学）が、専門誌に「微酸性電解水のもつ特徴（強い殺菌作用、高い安全性、非残留性、非浸透性、低環境負荷など）はきわめて有効」と発表しており、食品工場などで殺菌などに使われている。

## 鈴鹿の森田さん

森田さんは19坪のビニールハウス5棟で野菜作りに励む。ホウレンソウやコマツナ、ミズナなどの秋冬野菜、トマトやキュウリなどの春夏野菜で、12年前に脱サラして、有機肥料と無農薬で栽培を続ける。

「15年ほど、トマトをつくっている」と葉や茎がうどん粉をかけたように白くなる「うどん粉病」

## 無農薬栽培に有効か試験

に悩まされてきた。ウイルスが原因の病気で、収量が落ちてしまふ。「農薬を使わないので、白くなった葉を一枚一枚もぎ取るしかない」という森田さんは、「微酸性電解水には前から関心があった」と打ち明ける。

津野准教授は、鈴鹿市内でモノ作りをする製造業者と農家、研究者らが耕作放棄地でサツマイモを栽培するなどの「ニューファームプロジェクト事業」の顧問として参加する。事業の中に「微酸性電解水を使った安心・安全な栽培方法を普及する特別栽培プロジェクト事業」があり、森田さんも自分のトマトで試してみようと思いついた。

トマトを栽培している1棟5坪のハウスで、一部に微酸性電解水を霧状に噴霧し、他と比べる。病気が出るのは6月中旬なので、試験散布は上旬から始める予定だ。噴霧は1日3回で、1回の噴霧は30分間。1時間半間を置いて繰り返す。試験方法は津野准教授から直接、教わった。

噴霧する機械は、同プロジェクト事業発案者で、呼びかけ人の省力化機器設計製作会社「エース設備」社長・国吉修司さん(60)から提供を受ける。森田さんは「微酸性電解水は2002年に国が殺菌料として食品添加物に指定しており、安全なものだ。病害防除に有効かどうかを確かめ、地域に広めたい」と話している。（佐野登）

